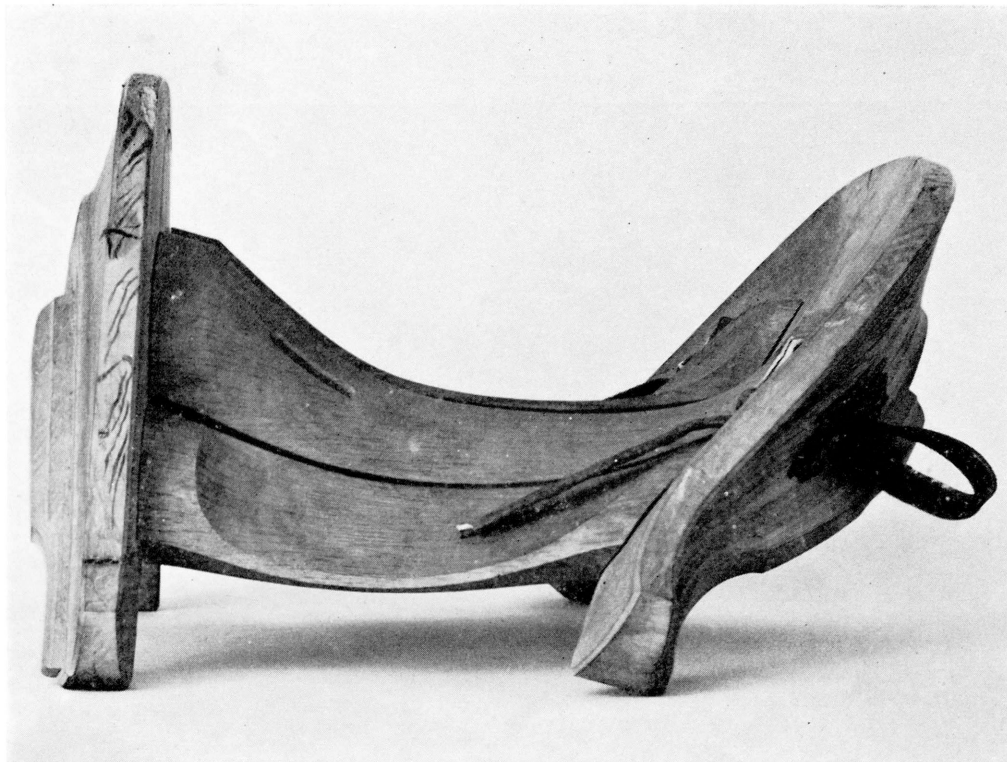
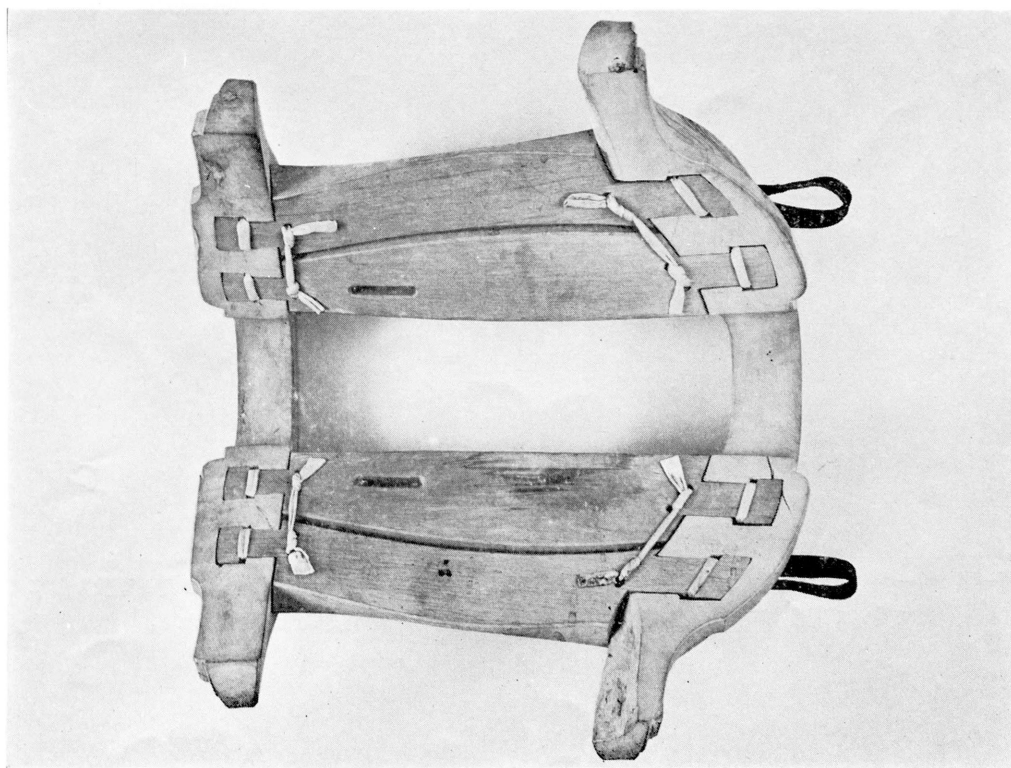




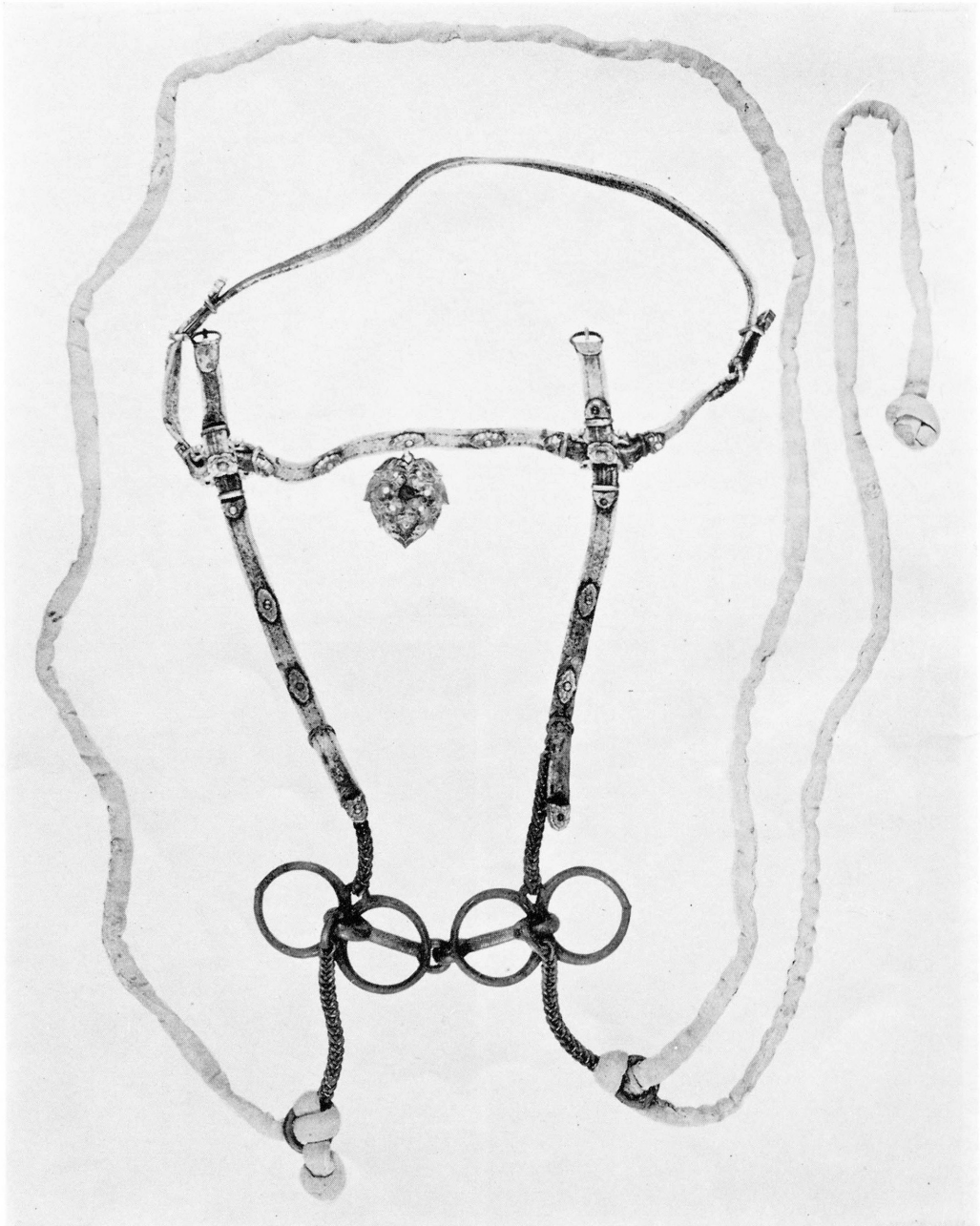
第一図 第一号鞍(鞍褥を除く)。上居木に腹帯革をかけ、鐙の力革を通す。黒色フェルト鞆と下敷を白革紐で貫いて下居木に縛す。上部両居木の間から屨沓の赤地獅子文緯錦が認められる。



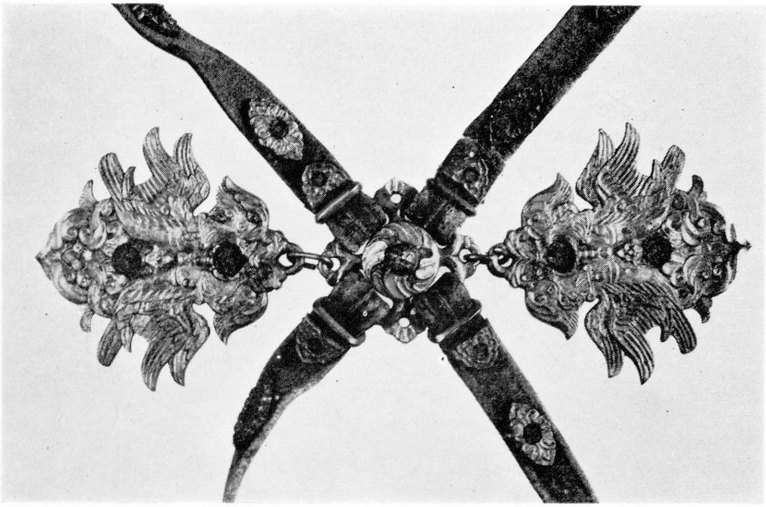
第二図 第一号鞍鞍橋。崩橋山形に銀泥雲形を描く。鞍革が後橋を貫き腹帯革に連なる。



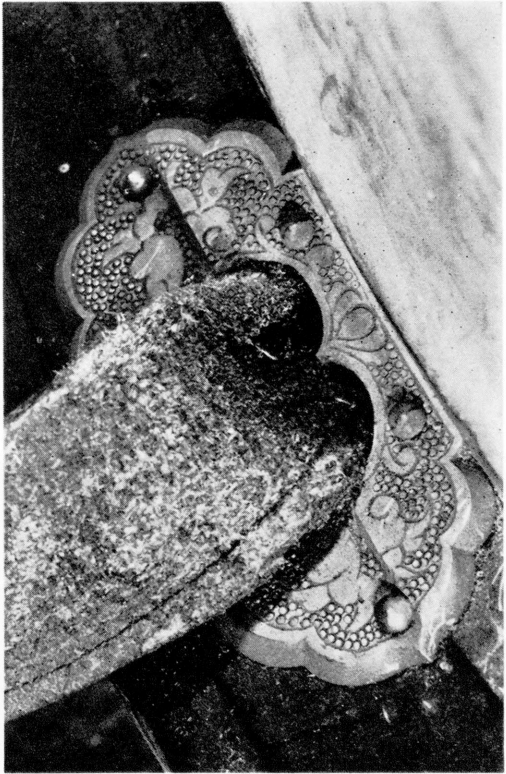
第三図 第一号鞍鞍橋裏面。前後輪下面の洲浜型造出しと、居木先き組込みを示す。



第四図 第一号鞍面懸。黒色鹿革紐に撰蝶、端金具、責め金具を附し、額革に金銅杏葉を下げる。葵梨銜（うばらぐつわ）を用い、笠と面懸鎖は兵庫鎖。手綱は丸紬白麻布。右側の余部は馬丁が口を取る。



第五図 第一号鞍尻懸止金具及O金銅杏葉

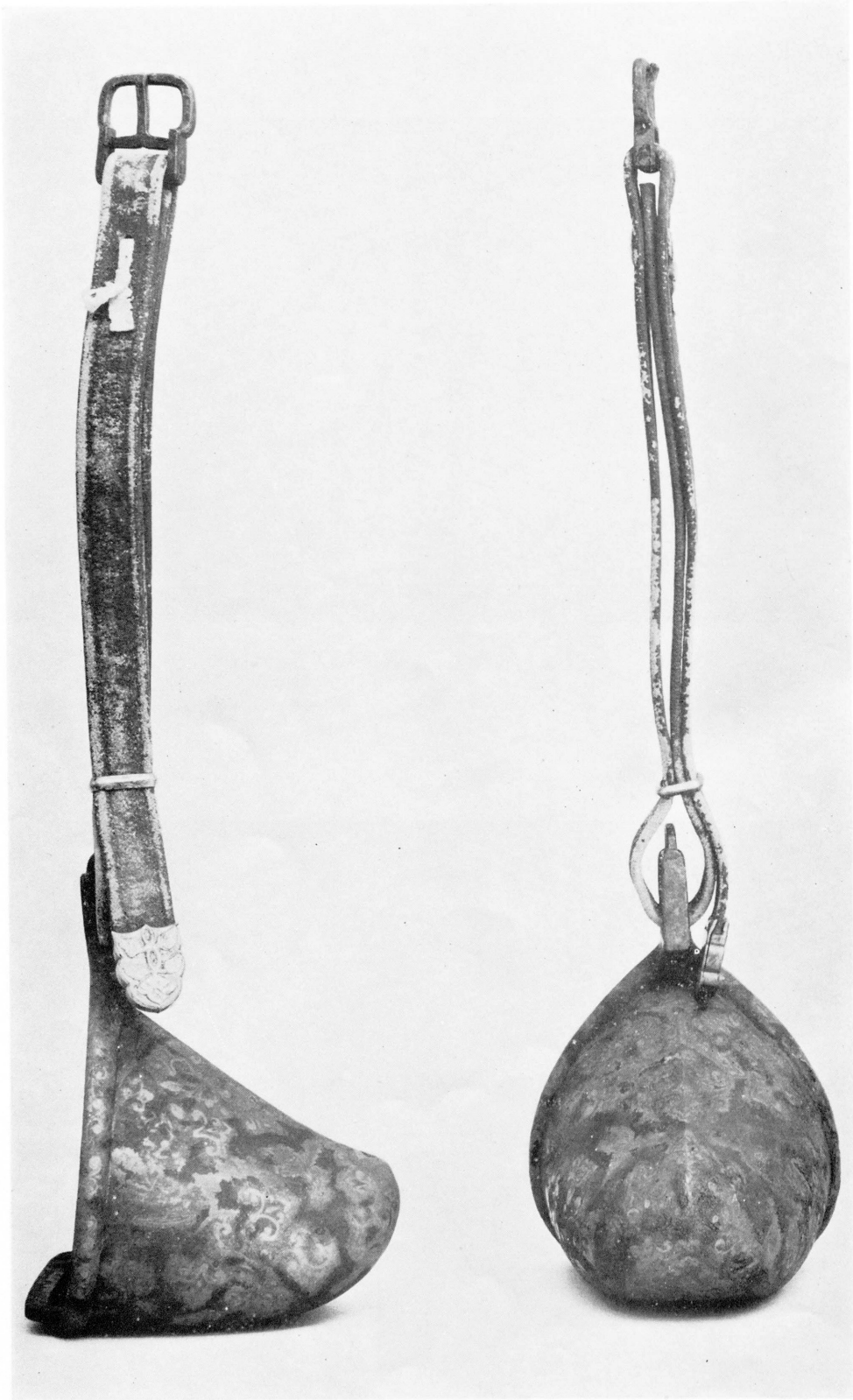


第六図



第七図 第二号鞍後橋鞍孔銀製座金（拡大写真）。毛彫り菊花及び雲形瑞花文を示す。

第七図



第八図 第一号鞍壺鏡。飛禽及び唐花銀象嵌を施す。踏込み後方に2種の舌を突出する。鏡鉤（みづを）は黒草紐製。三折りとして上部に白鹿茸を貫いて留め、黒漆塗鉄製鉸具をもって力革に繋ぐ。

